

平成29年度

保育所 自己評価①

評価基準a:十分できている b:おおむねできている c:やや不十分 d:改善を要する /:非該当

保育目標		・「生命」を大切にすること ・心身ともにたくましい子 ・やさしく思いやりのある子	
		評価基準	評価
人権の尊重	1	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	a
	2	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	b
	3	個人情報、個人の人格尊重の理念の下に、慎重に取り扱われるべきものであることを理解している	a
説明責任	4	理念や基本方針が利用者等に周知されている	b
	5	利用者が意見を述べやすい体制が確保されている	a
情報保護	6	利用者のプライバシー保護に関する規定・マニュアル等を整備している	a
	7	守秘義務の意義や目的を全職員に周知している	a
苦情解決	8	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している	a
	9	苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知・機能している	a
保育内容（養護と教育）	10	養護は保育士などが行う援助や係わりであり、教育は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解し、実践している	a
	11	子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者との連携・情報共有が行われている	a
	12	子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	a
	13	室内外問わず、子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	a
	14	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	a
	15	身近な自然や社会と係わるような機会を多く取り入れている	b
	16	さまざまな表現あそびが自由に体験できるよう、年齢に合わせた環境作りをしている	b
	17	遊びや生活を通して、子どもの社会性が育つよう配慮している	a
	18	外遊びや散歩など、戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている（週に4回以上）	a
	19	保育は、環境（人的・物的・社会的・空間的）を通して行われることを職員が理解している	a
	20	生活の場と遊びの場が区分でき、生活に見通しが持てる空間となっている	b
虐待の予防	21	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届くようになっている	b
	22	虐待を受けていると疑われる子どもが見つかった場合には、所定の用紙に記録を残し、しかるべき対応をしている	b
	23	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について児童相談所等の関係機関に照合、通告を行う体制が整っている	b
	24	施設内で、職員による虐待または、虐待と疑われる行為をすることはしない	a
	25	感情を刺激されて思わず不適切な対応等をとる職員がいる場合は、声をかけあったり、その場から一時離れてもらうなど、園内で見逃さずに対応している	b
特別な支援を要する場合	26	特別な支援を要する子どもについて、職員間で定期的に話し合う機会を設けている	b
	27	必要に応じて、研修を行い、医療機関や専門機関と連携をとっている	b
	28	保護者と必要に応じて情報の共有を行い、サポートをしている	b
	29	環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している	b
保護者への支援	30	ひとり一人の保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談等を行い相談を受けるとともに、必要に応じて専門の関係機関の相談窓口等を紹介している	a
	31	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	a
	32	子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者同士の子育ての経験を共有できる場を設けている	c

平成29年度

保育所 自己評価②

		評価基準	評価
健康支援	33	子どもの日々の健康状態を関係職員に周知しており、一人一人に応じた適切な対応がされている	a
	34	子どもの健康に関する保健計画を作成し、職員間で共有するとともに、子どもの健康の保持・増進に努めている	a
	35	内科健診、歯科検診、身体測定等を定期的に行い、配慮が必要な結果であれば、医師の指示に従っている	a
	36	年齢に応じて、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成している	a
	37	配慮を要する子どもの食事について、専門医による食事の内容に関する指示のもとで除去食を提供している	a
衛生環境管理	38	子どもが安全で健康的に過ごせる環境を作っている(清掃等)	b
	39	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している(温度・湿度・換気・音・遮光など)	a
	40	子どもが自分から思わず係わりたくなるような魅力ある環境構成をしている(発達・興味など)	b
保育過程・指導計画・記録	41	保育過程は全職員が参画し、発達過程の共通理解のもと作成している	a
	40	指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を見直している	b
	41	長時間にわたる保育の環境整備がされ、保育の内容や方法に配慮が見られる	b
	42	保育の計画は、0歳から就学前までの一貫したものとなっている	b
	42	保育計画は保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている	b
	43	保育日誌や指導計画を通して、計画・実践・評価・改善のサイクルを利用した自己評価を行うとともに、職員相互の話し合いを通じて明確になった課題を改善している	b
	43	進級児の申し送りは、個人記録等を活用し丁寧に、子どもたちの発達や遊びの連続性及び関連性を円滑にサポートしている	b
安全対策・事故防止	44	保育設備、遊具、環境において安全が保たれている	b
	44	感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者に通知、拡大の防止に取り組んでいる	a
	45	事故防止等のチェックリスト(安全チェックリスト等)やヒヤリハットを活用し、危険箇所はすぐに改善または職員間での共有を行い、事故防止に向けて具体的な取り組みを行っている	a
	46	事故の再発防止に関しては、職員間で検証と振り返りを行い、同じ事故を起こさないように努めている	a
	45	調理場、水回り等の衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	a
	46	事故や天災が発生した場合、速やかに対応できる体制づくりができています	a
	47	アレルギーの発症について、配慮が必要な園児がわかり、対応方法が全職員に周知されている	a
	47	不審者などの侵入時に対応できる体制を職員間で共有している	b
	46	全職員に対してSIDSに関する知識が周知され、予防のための取組が行われている	a
研修計画	47	研修に対しての基本姿勢が示され、個々の職員に対する研修計画を立てている	c
	48	研修を受けた内容や結果を職員全体に周知し、保育業務に反映している	c
	49	職員の研修に関する評価を行い次の研修計画に反映している	b
職員の資質向上	50	各職員に期待される役割、目標、人材育成の方法が明確化され、計画的に行われている	b
	51	職員連携が確立されており、経験者が指導するOJTの仕組みができています	b
	52	非常勤職員に関しても資質向上に向け、研修の機会を設けている	b
	53	職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法、規範、倫理が明文化され、職員に周知されている	a
	53	職員が自らの役割と課題を認識し、やりがいや満足感を持てるように人材育成を行っている	b

平成29年度

保育所 自己評価③

		評価基準	評価
地域との連携・子育て支援	65	小学校との間で、小学生と園児が交流する機会を設けており、定期的に情報交換するなどの連携体制がある	a
	66	保育所の資源（施設開放、相談援助、交流の場、情報提供）を開放している	b
	67	職員が子育て支援の重要性を認識し、保護者が安心して気持ちよく利用できるように共通認識している	a
	68	実習生等の受け入れマニュアルがあり、保育所の基本姿勢や方針を職員に周知している	b
	69	地域の人材、設備、機能等を活用し、積極的に地域との関係作りをしている	b
	70	関係機関、地域の団体などの情報を職員が共有し、必要に応じた仲介をしている	c
食育	71	職員が食育の基本を理解し、食育の計画を策定している	a
	72	食育を通して子どもたちが食事を楽しむことができる工夫をしている	a
	73	子どもの食生活を充実させるために、家庭へも食育の取組や食事の重要性を説明している	a
	74	文化、習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	b
施設長の責務	78	保育所の役割や社会的責任を適切に果たし、保育所組織の専門性の向上に努めている	a
	79	保育士等・保育所の自己評価等の結果を踏まえ、職員と協力して改善に努めている	a
	80	保育所の専門性を高め、活性化を図るため、自己研鑽に対する援助や助言をしている	a
	81	遵守すべき法令などを正しく理解するための取組を行っている	a

年度末の評価・反省

- ・年々職員が減り、担任がはっきりせず、毎日入る職員が変わることが多かった。子どもも自由に遊べる時間が少なく、合同保育になってしまい、落ち着かなかった。
- ・障がい児の入園があったが、対応や書類で迷うことが多く、それに付いて全体での話し合いや保護者と話し合う時間がなかった。入る職員が何となくで対応していると、職員が変わった時や不在時の対応も変わり、子どもへの負担が大きいと思う。
以前に比べ個別に支援していかなければいけない子どもが多かったのになかなか全体でやクラス担任同士で話し合う時間が持てなかったので、進め方にそれぞれ違いが出てきてしまうことがあった。
- ・10年目となり、施設自体が古くなり故障も出てきている。日頃の保育の中でも目に付く部分は報告しているが、定期的にチャックシケガにつながらないように全員で気を配る必要があると思う。
- ・子どもたちの状況を見ながら環境を変えてより良い環境を作ることが出来た。
- ・職員同士情報共有が出来ていないことがあり、連携が取れないことがあった。
- ・職員の入れ替わりが多かったが、その都度子どもたちにとってよい体制を検討した。
- ・保護者が意見を述べやすい環境作りが出来、その意見に対する対応も迅速に出来ていたと思う。
- ・戸外活動を多く取り入れ、自然と触れ合う機会も多く持てた。
- ・安全対策の面では不審者の侵入時、対応の仕方を全職員が把握しているかどうかにはやや不安を感じた。
緊急時の対応について、あいまいで理解できていない部分が多い。
- ・職員が少ない中、大きな事故などなく、一年を終える事が出来た。

次年度へ向けた保育所としての課題

- ・面談報告や研修報告を書面だけでなく、会議などで報告し、共通理解の場があるといいと思う。
- ・支援の必要な子の保護者とともに定期的に話し合える場があるといい。
- ・環境を整え、年齢に合った保育・あそびが提供できるよう工夫する。
- ・支援が必要な子に対して、環境や進め方を改めて全体で考え、職員全員が同じ考えを共有し合いながら、保育が出来るようにしていく。
- ・様々な勤務形態の職員がいるので、共有の仕方を再確認する。
- ・合同のクラスなので、活動をじっくり行うことが出来るより良い環境を作る。
- ・戸外活動を多く取り入れることが出来たが、子どもたちの興味や前日の活動などから、つながりのある活動を提供し、一日で終わりでではなく、次へと続いていく保育計画を立てていけるといい。
- ・人手不足で、勤務時間外で記録や書類作成等事務的な仕事、保育の為の教材環境準備の時間が取れていないように見える。ゆとりをもった保育が可能な人材配置が取れるといいと思う。